

創立30周年記念誌

Keep on Believing



大阪府立平野高等学校

平野高校  
Anniversary 30 th

# HIRANO HIGH SCHOOL



大阪府立平野高等学校  
創立30周年記念誌

## 教育目標

教育基本法の精神に則り、個人の尊厳を重んじ広い視野と調和に富む社会人として、生涯学習への展望と資質を持つ人間を育成する。

## 教育方針

1. 学力の充実と創造的思考力の育成
2. 個性の伸長と適性の確認
3. 豊かな情操と協調性の醸成
4. 強く健やかな心身の錬磨

社会の変化がゆるやかな時代には、学校教育、特に後期中等教育は、それなりの完結性を目標としてもよかったが、現今のように高度機械化社会においては、また特に普通科高校では完結性よりむしろ基礎・基本の徹底や、学習意欲の持続が望まれ、生涯教育へのつながりを、又自己教育力の育成が必要であるという観点に立ち、初代校長のもと、兼務者にも図って作成した。

二代目校長 故 南 武夫

## 校歌

作詞 校歌制定委員会

作曲 竹森 眞男

- 一、 緑濃き山の彼方に むらさきの金剛の峰  
仰ぎみる気高き理想 蒼空のもと力あり  
平野の諸声 ここに集へり
- 二、 風薫る大和の川辺 わきいずる生命の源泉  
新たなる友情のきずなぞ  
非時の実をとり入れむ  
平野の学び舎 ここにぞ立てり
- 三、 若人の足なみつよく めぐりこし歴史をみつ  
たしかなる真理の光 六稜の星あざやかに  
平野の賛歌 永遠に歌わん

# 校章・校旗



## 校章の由来

平野高校の校章は六稜の星に校名の「平」を中央に配した。

六稜の各稜はそれぞれの人生の指針を示すものとして、英和、創造、健康、自主、勉学、協調の精神を表している。



## 校旗

## 目次

・ 30周年記念式典記録	4
・ 挨拶	10
・ 30周年記念品・沿革	15
・ 各期の記録	
1期～20期	16
21期～30期	26
・ 画像集	46
・ 職員異動表	62
・ PTA役員一覧	67
・ 進路状況	68

# 30周年記念式典

平野高校  
Anniversary 30 th

2009.11.14





平成21年11月14日（土）、藤井寺市民総合会館（パープルホール）にて平野高校創立30周年の記念式典が厳かに行われた。

#### 第1部 記念式典

1. 開式の辞
2. 国歌斉唱
3. 学校長式辞
4. 創立30周年記念事業実行委員会  
委員長挨拶
5. 来賓代表挨拶
6. 来賓紹介
7. 祝電披露
8. 記念事業目録贈呈
9. 校歌斉唱
10. 閉式の辞



# 30周年記念式典

平野高校 2009.11.14  
Anniversary 30 th





第2部では記念式典としては珍しく、生徒が中心となって文化的な発表が行われた。また、卒業生やPTA・教職員の出演もあり、華やかな舞台となった。

最後には全出演者に有志生徒を加え、総勢100名近くがステージに上がり会場一体となって「TOMORROW」を合唱する平野高校らしい締めくくりとなった。

## 第2部 記念行事

1. ビオトープ発表
2. YAN! (ダンス)
3. DMミュージック
4. Johji  
(トリック・アーティスティックパフォーマンス)
5. UTA
6. Sir Duke Band
7. 青空BIG BAND
8. オリジナルハードジャズオーケストラ
9. PTAコーラス





# ビオトープ

平野高校  
Anniversary 30 th

造成前 と 造成期



- ・大阪府教育委員会  
「エコハイスクール」指定校(平成15~17年)
- ・文部科学省「グローブ(環境のための地球学習  
観測プログラム)」指定校(平成15~16年)
- ・全国学校ビオトープコンクール2005  
学校ビオトープ奨励賞受賞
- ・第23回全国都市緑化おおさかフェア 花・彩・祭  
おおさか2006まちなか会場校  
全国学校ビオトープコンクール2009  
銀賞受賞



汚泥でできた透水性煉瓦設置後



平成22年1月



稲刈り後



手作りの水車のある入口付近

## 未来に向かって進化し続ける 平野高校



校長 徳丸 達也

本校は、昭和55年4月、生徒急増期に地元の熱い要望により、133番目の府立高校として設立されました。

創立当時に植えられた約6000本の木々がたくましく成長し、四季折々に色鮮やかに校舎を取り囲み、花と緑が溢れる学校になりました。

正門の柱時計は、この30年間、歩を止めることなく、生徒たちを見守り続けてきました。本館屋上での一期生の入学式、工事の大きな音の中での授業、2年目に体育館完成、3年間続いたグラウンド整備、雨の日は、正門から本館入口まで、ぬかるみに橋げたを敷きつめ、歩けるようにしたそうです。「緑濃き」の校歌は平野高校賛歌として、3年後の1月に紹介され、1期生の卒業式で披露されました。

本校の設立、建設に関わり、並々ならぬご尽力をされた諸先輩、関係者の皆様のご苦労に改めて感謝と御礼を申し上げます。

時代の荒波の中、学校再建に向けて、「生徒指導のルールの徹底」「チャイム即入室」「宿泊研修」「全入部活」「体育大会の行進・団編成」など、現在では当たり前になっている取り組みが、時間をかけて1つ1つ作られていきました。

そして、平成7年、地球の温暖化と少子高齢化社会を見据え、「環境・人間専門コース」とその後のピオトープを舞台にした、幼稚園、小学校、中学校との交流・体験を通じた環境・福祉教育は、本校の特色として、定着するようになりました。レンガ敷の通路により、車椅子で奥まで入れるようになった全国最大級のピオトープ。近隣の子どもたちが蝉取りやめだか取りに訪れ、お年寄りが、ゆったりと散歩できるそんな「環境と人間に優しい」学校になりつつあります。今年、障がい者用のエレベーターと体育館への渡り廊下にスロープが設置されました。人間コースの大半の生徒たちは卒業までにホームヘルパー2級の資格を取得し、進学・総合コースの生徒たちも、自分の興味・関心のある科目を選択し、希望する進路に向けて学習に励んでいます。

平成18年度から、一人ひとりに進路を実現し、卒業して欲しいという思いから、30人学級に取り組んできました。丁寧できめ細かい取り組みは、地元中学校から「面倒見の良い学校」「入学した

い学校」「落ち着いた学校」として期待されつつあります。

部活動では、過去、スポーツクライミング、陸上部のハンマー投げで近畿大会出場を果たし、今年、書道部員が全国高校総合文化祭で特別賞を受賞し、来年度も、近畿、全国文化祭への出品が決定しています。

また、ここ数年で、水泳部、ハンドボール部、バレーボール部、バスケットボール部などが再建され、テニス部、バドミントン部、美術部、演劇部などの活躍が光っています。今年サブグラウンド整備や平野高校応援会の横断幕の作成により、部活動が更に活発になることを期待しています。

体育大会、文化祭、体験入学などの学校行事で生徒会が中心となり、エコ活動やユニセフへの寄付活動に加え、今回カンボジアにリコーダーをとどける取り組みなどを始めています。

本校を力強く羽ばたき、各方面で活躍する卒業生は、8000人になります。今回、全クラスへのモニター設置などの記念事業に向けて同窓会から多大なご支援をいただきました。ありがとうございます。分かり易い授業のために活用しています。

在校生の皆さん。各方面で活躍され、社会貢献されている先輩に続いてください。25期生高松先輩は、アジアで準優勝されたヨーヨーのワールド級の実力者です。自分の好きなどを伸ばし、自分の可能性を信じて、夢や目標に向かって、あきらめずにコツコツと努力するという先輩の良き伝統と平高魂を是非引き継いでください。

本年度、本校は、大阪市（平野区）に続いて、松原市から防災地域、避難所に指定されました。

30周年を節目に、本校は更なるエコ化やICT化を推進し、地域と社会に応える人材育成を図り、40周年・50周年に向かって進化し続けることが期待されています。

我々教職員と生徒は、PTA、同窓会、後援会、平野会、本校を支えて頂いている皆様のネットワークを大切にし、本校の更なる飛躍に向けて努力する所存です。最後になりましたが、この記念誌にご協力いただいた皆様を始め、30周年記念事業にご尽力いただいた皆様に心より厚くお礼申し上げます。

今後も変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 平野高校設立から携わって

30周年記念事業実行委員長  
平野会会長

西岡 富治



創立30周年おめでとうございます。平野高校設立に携わった私の思い出を少し述べさせていただきます。

昭和47年、公立高校普通科の通学区域改正が実施されましたが、当時私の住む東住吉区には普通科高校が1校でした。そこで小中学校のPTA役員たちは大阪府教育委員会に対し「地元への府立高校増設運動」を開始しました。平野区が東住吉区から分区する以前のことで、府教委や当時の教育長と地区PTA協議会との幾度かに渡る交渉の結果、現在の平野区に2校の府立高校を新たに設置すること、地元での用地買収に私たちが協力することで合意に至りました。平野土地改良に協力を求め、上池を平野高校、下池を長吉高校にすることで土地の確保ができました。設立現場には私も多く足を運び、水抜きからくい打ちまでしっかり確認していました。周辺住民への配慮から植え込みを多くし、今ではその樹木が大きな大木へと生長している姿を確認できます。初代の相馬校長がご自分の教え子の子供さんを多く入学させておられました。1期生の入学式には体育館も無かったのですが、今では設備も整い地元からも期待される学校へ成長されたことと喜んでおります。特に30周年記念行事の大きな目玉としてサブグラウンドも整備され、体育の授業やクラブ活動に大いに役立てられる事と期待しております。人類共通の課題である環境と福祉に着眼され、PTA・地元の方からの暖かいご支援をいただきながら、平野高校が今後ますます発展される事と祈念しています。

## 「30周年おめでとう!!」

後援会会長

奥田 弘幸



創立30周年、ビオトープ10周年誠にありがとうございます。

思えば十数年前に少子化の影響もあって生徒数の激減で教育委員会では学校数を減らすと言う計画があり、何と!!平野が廃校になるかも知れない!との話を聞かされました。そんな時、当時の田中忠士校長先生から「20周年を無事に迎えられるれば、まず大丈夫でしょう」とのお話があり、これは大変な事だと痛感し、ちょっと勇み足?をし、校長先生からストップがかかった事がつい先日のように思い起こされます。(笑)

そして「環境・人間コース」の導入等数々の改革がなされ20周年を無事に迎え、ホッとしましたわけですが、それがもう30年…。その間も着実に成長し、元気溢れる姿を目の当たりにし、大変嬉しく思っております。

村田英男さんの人生峠に「冬は必ず春となる」とありますが、正に「春」の到来と言う気持ちでございます。これもひとえに歴代校長先生はじめ諸先生方のご努力の賜物であると深く感謝申し上げます。もちろん、学校での主役である生徒の皆さんの頑張りがあり、歴代PTAの役員・委員をはじめとした保護者の皆様のご協力があった事も忘れる事は出来ません。本当に有り難うございました。

今後も本校発展のためご尽力を賜りますようお願い申し上げます。幸いにして本校には校長先生をはじめとして常に前向きに取り組んで頂いている先生方が数多くおられ、将来に向けても希望溢れるかぎりでございます。

終わりに、本校の益々のご発展と皆さま方のご健勝をお祈り申し上げ、感謝とお祝いの言葉いたします。

「創立30周年」誠にありがとうございます。

## 挨拶

平野高校  
Anniversary 30 th

### 次の飛躍を目指して

初代校長 相馬 俊雄



創立30周年を迎えられ、誠にめでたうございます。学校の発展は言うまでもなく、周辺地域の様子にも感激いたしました。

当初のあの路、あの流路等今更のように思われます。

開校時は本当に心の余裕もなく、一途に形を整えることに専念しました。

とりわけ進路にある程度の実績を挙げることが一致した目標でありました。

先生方の努力とりわけPTAの三枝、西岡両会長をはじめとする方々、地域社会の後援会の御尽力、生徒の皆さんの自覚、これに応じて府会議員の先生方、当局のご配慮を頂き今日の成果が形成されたものと感謝しています。

この間、学校は環境コース・人間専門コースの設置をはじめとし社会的な要請に合った特色のある教育がなされています。またこの10年ビオトープの名称で、野生生物の自然保護、それらの生息空間の整備に取り組み、全国コンクールで奨励賞を受賞した等の実績をきいています。どうか関係ある皆様方の一層の御力添えをいただき、本校の更なる発展を願う次第です。

### 飛躍の時代に踏み出そう

第三代校長 三谷 鎮哉



創立30周年を心からお祝い申し上げます。

私は、第3代校長として、平成元年に、創立10周年記念式典を挙行了しました。その折の式辞において、中国の十八史略にある「創業と守成といずれが難き」という言葉を引用して、学校創立期の緊張感と職員生徒の一体感を継承し持続させることの難しさを述べました。

しかしその後の、とくに最近10年ほどの、平野高校の教育をするなかで、創建の時代、充実の時代を経て、今や飛躍の時代へ大きく踏み出している様子を垣間見まして、大変心強く思っています。とりわけ、2年生、3年生の教育課程に、自由選択の時間が4～8時間あり自己の進路を見極める機会がある程度保障されているカリキュラムは、コース制とあいまって、将来その実を發揮すると思われれます。学校が、単なる知識の習得にとどまることなく、学問を通して社会人として生きる技術を修得する場として、多方面へ関わりが開かれているところに、今後一層の発展が期待されます。教職員ならびに生徒の皆さんの、ますますのご健闘をお祈りいたします。



「出藍之誉」と言う言葉は、弟子や子が師匠や親をしのぐことです。また、みずからが師の教えをすっかり修め、さらに向上する意味にも用います。

第五代校長 田中忠士先生作  
「出藍之誉」

## 環境人間コースへの思い

### 第五代校長 田中 忠士



昭和55年府立第133高校として産声を上げ創立30周年を迎えた。誠にめでたいことである。赴任した平成6年、当時の平野高校は、「困難校」として烙印を押され、生徒減少期には、「真っ先に廃校になる」と噂が飛び交っていた。

指導が困難を極め、教材研究の時間も取れず、家庭に持ち帰る為、家庭崩壊寸前の教員も出そうな状態で、疲労も極限に近づいていた様だった。グラウンドやテニスコート等は、雑草に被われ、中庭の樹木は害虫に犯され、枯死寸前の状態で、学校が荒れている証が見て取れた。

新設校や困難校を渡り歩いた経験を持つ私に、一抹の望みを抱いてくれたのか、「校長の学校経営の方針を聞きたい」と教員から申し出があって研修の場を持った。

学校の施設や地域周辺の状況と、将来を見通した「環境教育」と「人間教育」を普通科と併設して設ける事を提案した。「教科書は持って来ない、漢字は読めない、書けない」という生徒が多い中で、果たして、授業が成立するのか、疑問に思った教員が少なくなかった。生徒が登校の魅力を感じる体制を講じ、分かる授業を実施する。座学中心の授業方法を改めることが大切、実験や実習、施設訪問等に伴って、自ずと学習意欲が湧いてくる。「生徒を信じる」「期待をかける」と、生徒は必ず指導に乗ってくる。繰り返しのべた。時間が足りず、研修は2回に及び、教員もやる気を持ってくれた。

府教委へ申請したが、生徒減に伴い、存続させる学校とそうでない学校を選別していた時期で、難しい立場にある学校には認可を降ろす気配が薄かった。

間に弊られると思い、知人を通して文科省の意見を伺ったところ、大きな反響があり、都府県の教委や高校から「環境人間学科」の資料請求があい雑い。府教委の中でも話題となり、やっと「認可」の運びとなったらしい。

地球温暖化、環境汚染、気候変動の問題や、日本国内の高齢化・少子化等の社会福祉の問題等を担当するプロパーの養成が急務となって来ている。

地球は人間だけのものではない。地球上に棲む生物の「共有」のものである。人間は生物の犠牲の上で生き（生かされ）てきた。壊した地球環境を元に戻さねば、人類はやがて滅びると言われて久しい。人間の「欲望」を追求するばかりの文化や科学を改め、生物と「共生」出来る「地球環境づくり」を目指すべきである。

## 創立30周年に寄せて

### 第六代校長 西田 貞士



創立30周年おめでとうございます。私は、平成8年から教頭として赴任し、平成9年から校長として平成13年度まで在籍していました。

本校は、生徒急増期から急減期を迎え困難な時期や試練を生徒と教職員が一丸となって取り組み前進してきました。

平成7年度から学校特色づくりとして「環境・人間コース」を創設し、これらの推進・発展に教職員が必死に取り組んでまいりました。生徒の意識が変わり、意欲も芽生え、学校行事等に積極的に参加し、体育祭では競技は勿論のことバック製作や、団のダンス披露は、素晴らしいものになりました。文化祭では学年団・学級・部活動の展示等にも工夫を凝らし、保護者会もガレージセールを開催され年々盛大になりました。「入れる学校」から「入りたい学校」へと改革されていきました。平成11年11月6日に開催された創立20周年記念式典は、多くの皆様のご協力で成功裏に終了し、素晴らしいものになりました。環境教育の一環として、全国最大級の学校ビオトープづくりに挑戦し、千坪を越す池に生息する生き物や植物を活用します。池の中に観察路を設け、観察・栽培し、水の浄化等も工夫しました。平成9年に生徒と教職員との手作り、池の半分を埋め立てました。平成12年9月、府教育委員会から特色づくり推進名目で予算化され具現化しました。

住民、教職員、生徒が共に生きる場として、また、高齢者や障がい者等が自然を楽しむことができ、近隣の幼稚園児・小・中学校と校種を越えて共に体験・学習できる場としての大事業でした。バリアフリーも意識し、憩いの広場として水辺と触れ合いが容易になるよう、また、農作業実習場として活用できるように整備を進めました。芋掘りや学校行事に恵我幼稚園児を招待し、触れ合いを通じて生徒の成長に大いに役立ったと思います。福祉教育は社会の中で人々が共に生きることを学ぶ学問で、心豊かにするのに大きな意味があります。施設実習・介護施設・デイサービスセンター等の実習の確保が大変で、担当主担は大変苦労しました。多くの教職員の協力を得ながら、施設側の理解のもと、人間コースの生徒分の実習施設・場所が確保されました。

福祉は人との触れ合いを基本とし、人々が共に共生していく社会を築くことが大切であり、共に交流を深めることに意義がある。今日の社会状況では、人間の生きる自然環境や生活環境を考え、地域の人々と共生することが大切である。平野高校の特色づくりの「環境コース・人間専門コース」の両コースが新しい時代に、ますます評価され充実・発展することを確信しています。

## 挨拶

  
平野高校  
Anniversary 30 th

### “発展する平野”を実感

第七代校長 原田 哲治



私は赴任して先ず力を入れたかった事は部活動の活性化でした。開校後20年余りが経過しており、それまで多くの先人のご努力で少しずつ落ち着いていた学校でしたが、当時はまだ生徒指導上の課題も多く、その一つの打開策として、文化部、運動部の活性化の必要性を痛感していました。生徒に目的意識を持たせ、集団活動を通して規範意識や社会性を醸成したい、そんな強い思いがありました。後援会にお願いして相当な額の資金援助もしていただきました。生徒と一緒に硬式野球部に加わり監督教諭のノックを受けたことも懐かしく思い出されますが、放課後や休日に取り組むまもなく転勤となりました。

学校を離れて7年。過日お伺いした時、放課後、猛暑の中で美術部の生徒が7名汗をぬぐいながら熱心に取り組んでいました。PTA新聞の記事からも、様々な部活動が活発になっている様子が見て取れ、平野高校が右肩上がりに着実に“伸びている”ことを実感しました。今後ますます発展していくことを確信しています

### 30周年に寄せる想い

第八代校長 牧野 統治



平野高校創立30周年を心からお祝い申し上げます。私は平野高校に平成15年から4年間お世話になりました。第8代校長として赴任した時の印象をいくつか挙げてみます。一つ目は、ビオトープの想像以上の大きさに驚いたことでした。生徒・教職員の一大作業で完成された心なごむ場であり、環境コースの授業や恵我幼稚園児とのさつまいも掘り等で活用されていました。二つ目は入学直後の宿泊研修をはじめ、高校生活を気持ちよく送るため、気持ちの切り替えや規律の大切さを学ばせようとしていたことでした。三つ目はベテランの先生方を中心とした熱のこもった授業であり、それに応えようとする生徒の姿でした。四つ目は文化祭・体育祭の学校行事での熱心な取り組みでした。妥協のない展示作品がありました。五つ目は楽しいPTA活動であり、平野高校の教育に対する保護者の皆様の温かい思いにふれたことでした。夏の夕べの楽しい陶芸の窯焚き作業も心に残っています。その根底には一人ひとりの教職員の平野高校への温かい思いと努力があったと思います。平野高校を離れた現在、そのことをより強く感じています。

30人学級のいち早い実施やさまざまな選択授業もスタートし「面倒見の良い学校」という評価は定着しました。時代は激しく変化しつづけています。平野高校のよき伝統を守りながらも、常に新しいことに挑戦し続ける学校であってほしいと思います。ここ数年は若い教職員がたくさん活躍されていると聞きます。若い力とベテランがスクラムを組めば他校に先駆けてさまざまなことが可能になります。いうまでもなく学校は生徒たちのためにあるものです。困難を跳ね除け、彼らの未来をより明るいものに変えていくにはどのような力をつけることが求められているのか、そのためにどのように学校を変えていくのかが問われています。これからも生徒と共に歩みつづける平野高校であることを願って、今後の更なるご発展を心から期待しています。創立30周年本当におめでとうございます。



30周年記念クリアファイル



30周年記念スポーツタオル



応援旗

## 沿革

- |             |  |
|-------------|--|
| 昭和54年3月12日  | 大阪府議会において、大阪府立第133高等学校（仮称）設立の建設予算の議決     |
| 昭和54年6月4日   | 第1期建築工事請負契約の承認議決                         |
| 昭和54年9月15日  | 第1期工事着工                                  |
| 昭和54年12月19日 | 大阪府立平野高等学校を設置する為の府立高等学校設置条例の一部を改正する条例案議決 |
| 昭和55年1月1日   | 設置条例に基づいて、大阪府立平野高等学校が設立される               |
| 昭和55年3月31日  | 第1期工事竣工                                  |
| 昭和55年4月1日   | 本館が完成し開校、第1期生564名（12学級）が入学               |
| 昭和55年4月8日   | 第1回入学式挙行                                 |
| 昭和56年3月11日  | 第2期工事竣工                                  |
| 昭和56年3月20日  | プール棟工事竣工                                 |
| 昭和56年3月31日  | 体育館棟工事、プール工事及び自転車置場工事竣工                  |
| 昭和56年4月18日  | 第2期工事及び体育館落成記念式典                         |
| 昭和57年2月27日  | 第3期工事竣工（北館）                              |
| 昭和58年3月30日  | 第4期工事竣工（環境整備）                            |
| 平成7年4月1日    | 「環境・人間コース」設置 新制服採用                       |
| 平成11年11月6日  | 創立20周年式典挙行                               |
| 平成12年8月29日  | ビオトープ着工                                  |
| 平成13年4月1日   | 「環境・人間専門コース」と改編                          |
| 平成15年～17年   | 大阪府教育委員会エコハイスクール指定校                      |
| 平成15年～16年   | 文部科学省「グローブ（環境のための地球学習観測プログラム）」指定校        |
| 平成16年11月26日 | ビオトープ5周年記念行事                             |
| 平成17年       | 全国ビオトープコンクール2005学校ビオトープ奨励賞受賞             |
| 平成18年4月1日～  | 30人学級実施                                  |
| 平成20年4月1日   | 全クラス液晶モニター設置                             |
| 平成20年       | 大阪府教育委員会スクールカラーサポートプラン指定校                |
| 平成21年       | 全国学校ビオトープコンクール2009銀賞受賞                   |
| 平成21年       | エレベーター設置                                 |
| 平成21年11月14日 | 創立30周年・ビオトープ10周年記念式典挙行                   |



# 1期生~4期生

平野高校  
Anniversary 30th

1980.4~1984.3



## 開校のころの思い出

旧職員 河内 敬司

昭和55年2月下旬、発令を受けて平野高校の一員となり、開校へ向けての準備事務に携わる事になりました。校舎が未完成のため、生野高校、東住吉高校の校舎を間借りして、開校準備、入試を行い、3月26日ようやく新校舎に入ることができました。しかし、未完成部分が多く、校舎周りの舗装路もなく、電気、ガス、水道も満足に使用する事ができず、備品の搬入やトイレに至るまで随分苦勞したことを思い出します。開校後も予算が少なく、教材教具から事務用品にいたるまで満足にそろえることができず、先生方にはずいぶん無理をお願いした事もありました。職員の平均年齢も若く、仕事に遊びにバイタリティーにあふれ、苦しく楽しかった開校当初を懐かしく感じています。

## 何はなくとも若さが財産 津田 量三

5月はじめの校外学習は電車を利用し、駅から隊列を組んで明日香野を歩きました。汗ばむ陽気の中を制服着用で歩くのは生徒には酷だなあ、と少し心が痛みましたが、弁当をひろげて談笑し、駆けまわって楽しむ生徒を見ていると、あふれるエネルギーがすべてを解決してくれる鍵となると思えました。若さがタブーを追放し「何でもやってみよう」は、職員全体の共通理解となっていきました。将に、「若さが新平野の財産」であったと思います。

## 思い出の1日

旧職員 光川 銀三

それは昭和59年1月31日、スキー修学旅行の出発日の日のこと。それまでは2月末に行なわれていたものを、3期生では1ヶ月早めて実施しました。当日は大阪では珍しく早朝より粉雪が舞い、出発時刻には辺り一面がうっすらと雪化粧をし、生徒は大はしゃぎ。私自身も、これから起こる事態をその時には殆ど感じていませんでした。バスが進むにつれて雪はだんだんと激しくなり、ついに高速道路が不通となったときに、初めて事態の大きさに気付き始めました。一般道路に降り、渋滞の道をゆっくり進むにつれて、不安がピークに達しました。長時間のバス内での疲れ、トイレの問題など。そして、ついに宿舎での夕食の時間になっても、まだ渋滞のバスの中という最悪の事態を迎えました。しかし、添乗員の方々の機転で、次ぎの町へ連絡を取り、全員分のパンと飲み物の手配をしていただき、何とかこの難を切り抜ける事ができました。予定では12時間で着くところを、18~20時間を費やし、ようやく到着。遅いクラスは翌日の午前3時にやっとバスを降りることができました。3期生の高校生活で、最も長い、そして最も思い出に残る一日であったと思います。



## 環境整備と校内美化 旧職員 山口 英子

第4期工事として環境整備工事が行なわれましたが、このとき緑化整備とともに特に力を入れたのは校内美化でした。教室、廊下、トイレなどの清掃。抜いても抜いても生えてくる雑草抜き。校長を先頭に教師、生徒、事務職員、私たち技能員と、全校生徒が一丸となって汗を流しました。また植えた木々の一本一本に毎日水やりを欠かしませんでした。

この木々が10年後20年後50年後に立派に大きく根を張り育ち、それらの木々の下で生徒たちが勉強にスポーツに励んでいくこと、そして平野高校がこの地域に大きく根を張ってほしいと願いながら。



# 5期生~8期生

平野高校  
Anniversary 30 th

1984.4~1988.3

## 平野高校同窓会発足 旧職員 北川 吉平

平野高校の教育を受けて育った人たちが社会に出てからも、同窓生として互いに力を合わせ励ましあいながら活躍してくれることは、我々の切なる願いでありましたし、後輩となる生徒の教育のために重要な役割を果たす事を期待して、同窓会が発足することになりました。担当は運営機構の改革で新設された総務部でした。昭和59年の第一回総会は、視聴覚室で開催され、若者の新しい食文化となってきたハンバーガーを食べ、ジュースで乾杯しました。若い先生の目にどう映ったか知りませんが、我々には昔の同窓会とは一味違う総会でした。一味の違いはハンバーガーのせいだけではなく、独特の緒方節で満場の笑いを取る緒方先生の名司会があり、転任された懐かしい先生の顔がたくさん揃い、先生方の楽しいお話が飛び出し視聴覚室が沸き上がるなど、新しい時代の同窓会という雰囲気になりました。翌年からは卒業生のご尽力で、ハンバーガーに代わってフライドチキンが登場し、会場を食堂に移しました。

## 草創期のラグビー部 旧職員 衣笠 勝美

創立と同時に発足したラグビー部は、用具も何もない、まさにゼロからのスタートでした。1年目は試合をしても連戦連敗でしたが、2年目の秋には体力もつき、翌年の新人戦では公式戦初勝利の余勢を駆って、準々決勝まで勝ち進みました。その秋、3回戦でシード校に惜敗し、涙ながらに引退した1期生を送る輪の中に澄川君がいました。2年後、彼は持ち前のパワーとスピードを評価され、大阪高校選抜の一員として、ニュージーランドに遠征したのです。個性豊かでガッツのあった草創期のラグビー部員たちの姿は、ずっと心に残っています。



他校生招待 実現  
文化祭を、平野を、  
より発展させよう

'86. 9. 27~28

生徒会。





### 生徒相談室

旧職員 嶋田 圭司

開校2年目より北館1階の奥の小部屋で活動が始まりました。昼休みと放課後の当番制でした。そこに多くの生徒たちがやってきて、巣立っていきました。昼休みになると、定期便のようにやって来る生徒もいました。口を開けば「学校おもしろい」「勉強わかれへん」「学校辞めたい」云々。そんな彼らも無事卒業していきました。卒業式の夜、電話がかかってきて、「照れるから面と向って言われへんかってんけど、俺卒業できたん先生が相談に乗ってくれたおかげやねん。ありがとう」今も忘れられぬ一言です。

### 試みと自覚の文化祭

旧職員 山中 敬子

英語講師ミス・カリンによるオープニング宣言で始まった開会式、プラスバンド部の演奏や、旧職員のシンセサイザー演奏。玄関近くで待ち受けるおおきなゴジラ。生徒たちが待ちに待った、他校生招待が実現された第7回文化祭が行なわれました。秋晴れの当日、シンボルマークのパネル、校舎正面屋上から吊り下げられた垂れ幕などが、文化祭のムードを盛り上げました。「今年限りの公開ではなく、来年にも引き継ごう」そのためにも「文化祭を成功させよう」というみんなの気持ちが新しい試みを生み、生徒の行動にも自覚を与えました。他校生招待の実現を通して自信をつけた生徒たちは、一回り成長したことと思います。みんなが希望を持って、目を上げて歩み続けるとき、平野高校は変わっていくと信じています。

# 9期生~12期生

平野高校 1988.4~1992.3  
Anniversary 30 th



## 図書館の充実

旧職員 中西 重子

図書館報が創立まもなくより続いている読書会(現在でも本校図書館の目玉行事)等の発表の場として昭和60年に創刊され、同じ年に教務部より図書・視聴覚部が独立しました。ますますの活性化をはかるため、これまでの自然発生的な図書部員らしきものではなく、各クラスより図書委員を選出し、カウンター当番・図書ニュースの発行などの取り組みも始めました。またこのころには、蔵書数も約6,000冊となり時代の要求にマッチした本も取り揃える余裕ができました。活字離れがいわれる昨今ですが、読書は心の糧・生きるヒント、生徒たちには一冊でも多くの本を読んでほしいと願っています。

## AET

旧職員 米田 隆

6期生とともに修学旅行に行きました。英国圏の青年を日本の英語教育の現場に招致する計画-JETプログラムが始まって間もないころでした。このころのAETの数は現在の3分の1以下でした。少数精鋭でオックスフォード大学卒の超エリートが多く、8カ国語を操れる猛者もいました。写真中央の女性は英国出身のカリンです。自費で修学旅行に参加し、スキー場への往復、ドライブインでの休憩のたびに精力的にバスを乗り換え、12クラス分のバスすべてに顔を出し、生徒との交流を深めてくれました。



PTA  
邦楽部門発表会



平野高校10年目の節目 旧職員 筑紫 敏一

私が在職中に10周年記念式典が実施されました。その記念行事で先ず思い出されるのは、記念行事実施の可否について論議百出し、中谷勝保先生のご尽力により、実施の運びとなった事です。実施の決定後は実行委員会が構成され、準備は順調に進みました。創立10周年の記念行事は、平成元年11月2日に、大阪府立青少年会館において、記念式典、ジェームス三木氏による記念講演、芸術鑑賞の一環として、東京芸術座による「十二人の怒れる男たち」の上演を行ないました。当初は生徒集会の状況などからいろいろと危惧されましたが、式典は厳粛に行なわれ、講演会では講師に盛大な拍手を送り、演劇は吸い込まれるように見入っているという状況で、改めて生徒たちを信頼することになった次第です。このようにすべての記念行事が成功裏に終えられたのも、PTA、講演会の方々のご協力があったの事だったと感謝しております。



放送部 高校DJコンテストNHK・FMに出演  
旧職員 緒方 稔

創立以来、文化祭恒例となったカラオケ大会やラジオドラマ制作、1988年11月、NHK杯大阪府高校DJコンテスト予選を突破し、決勝大会に出場。松岡伸明(7期)・潮湖月(9期)のペアDJが「なつかしのヒーロー」でスタジオを沸かせ、NHK・FM「夕べのひととき」に生出演という快挙を成し遂げ、校内外で話題となりました。松岡君は卒業後も後輩の指導にかけつけてくれ、以降3年連続決勝出場、NHK・FM出演の原動力となってくれました。1年生だった潮湖さんも3年連続出場、89年には那須広美(9期)、尾形千栄子(9期)さんたちとともに生出演したNHK・FMスタジオで、ゲストの水前寺清子さんから「あなたたちなら声優になれるわよ、きっと」と激励される感激の体験もありました。思えばこのおりのテーマが「平野高校10周年インフォーション」、翌年は「カラオケ大会とともに平野高校放送部10年」でした。この事跡でクラブ予算は一挙3倍となって、部員とともにハイ・タッチでしたね。

# 13期生~16期生

平野高校 1992.4~1996.3  
Anniversary 30th



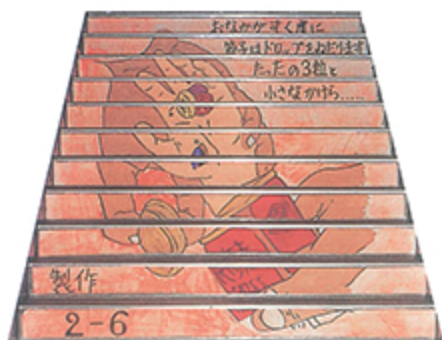
PTA新聞 卒業生保護者 中森 早苗

4人の子どもがそれぞれ成長していく中でPTAの役をいろいろと務め、最後が本校での新聞作りでした。委員数名でたびたび学校に集まり作り上げて行くことは、本当に楽しい作業でした。「化粧はおばさんがするものよ」とか「青春は部活にあり」などの記事を書いた記憶があります。学校新聞コンクールに入賞して、私の長いPTA活動は終わったのでした。その時平野高校生だった息子も今は責任感の強い真面目な社会人として頑張っています。



家庭訪問週間 旧職員 山本 陽子

新入生の宿泊研修は第12期生を最後に見直すことになり、それに代わって翌年から、4月の「家庭訪問週間」が始まりました。この取り組みは、全学年、全家庭を対象に行なわれ、午前中の授業の後、午後から担任と副担任が協力してクラスのすべての家を回りました。北は加美北から、南は河内長野までの相当広い校区ですで大変でした。何とか学校の落ち着きを取り戻すために、保護者の協力を求めて、生徒たちと向かい合って頑張っていこうという全教員の、気迫に満ちた3年間の実践だったと思います。



### 平成5年度体育大会マスゲーム 旧職員 三宅 智子

今思えばなぜあんなに頑張れたのか、自分でもよくわからない。あの時代ほめ言葉をもらった事のない生徒たちばかりの中、いつも大声を出していた毎日、今より余裕がなかったはずなのに、自分をあれだけ駆り立てたのは何だったのか？

4月最初に生徒に私の意志を伝え、彼女らの意思を確認し協力を求め、練習を開始したものの、放課後の練習もどれだけ集合するのか不安のまま毎日が過ぎ、そして当日の体育祭も休むのではないかと、苦悩の状況が続きました。当日の本番を迎えたとき、一番緊張していたのは生徒ではなく、私だったのではないかと思います。彼女らの演技は恥ずかしさと緊張から、おしゃべりしながらの内容ではあったが、演技が終了するまでは膝は震えっぱなしであったことを覚えています。彼女たちが演技を終え、本部席への礼をしたときにいただいた拍手は、私の心の中に残っていますが、あの娘たちの心の中に深くいつまでも残っていることを期待しています。

### コンピュータの授業 旧職員 東上 明

本校では昭和62年度から3年生(6期生)の3学期に5時間程度、コンピュータについての授業をプリント学習によって始めました。平成2年度の夏に48台のコンピュータが設置されましたが、それを使用するの授業を行なうまでには、しばらくの準備を要しました。教員の研究期間、授業内容の検討、ソフトウェアの準備、室内の整備などを経て平成5年度から3年生(12期生)の選択者30名を対象に週2時間で本格的に情報教育が始まりました。当初は数学科の3人の教員で担当し、ワープロ、ベーシックによるグラフィックなどの内容で、生徒も積極的に取り組み好評を得ました。現在では2年生にもコンピュータを使っの授業が行なわれ、一層充実した内容となっています。





# 17期生~20期生

平野高校  
Anniversary 30th

1996.4~1999.3



## 新制服の採用

旧職員 名村 恵史

きりっとしたネクタイ、かわいいうりボン、落ち着いた深い緑系のスマートなブレザー。新制服に身を包んだ新入生が、誇らしそうに入学式に並んだときの感激はまだ記憶に新しいものです。前年4月に赴任された田中忠士校長が「生徒の誇りと自信の持てる学校作り」を提唱され、その一環として新制服の採用が発案されたのです。今から思えば、これがその後の学校改革の始まりでした。

業者のショールームへ行ったり、教職員がモデルになってのファッションショー、在校生やPTA、中学校の人気投票と、自然学校に明るく楽しい雰囲気広がりました。たまたま別の所で中学校にお伺いしたときのことです。候補の制服の写真が掲示板に貼ってあり、その前で、数人の中学生がワイワイ制服について話していました。みんな平野高校に期待しているのだなあとしみじみ実感しました。

## 学校開放講座

旧PTA役員 川上 由紀子

学校からの開放講座のお知らせを見て、目にとまったのがきっかけで、受講して2年になります。1ヶ月に1,2回の講座は、働いている私にとっては十分すぎる時間でした。「楷書、行書、草書、隸書、篆書」。中には書いた事のない字も、書いていくうちに楽しくなってくるのです。写経にしても1人だと書いてみたいと思うだけで終わってしまいましたが、回を重ねるごとに上達していくように思えました。時間の過ぎるのが速く思えました。「篆刻」「裏打」、時間があるので茶碗作りなど、いずれも私には初めての経験で、新鮮に思え、毎回行くのが楽しくて、「書を楽しむ」と初めて言われたことを充分体験させていただきました。働いて3人の子育てをして、子どもたちが成長するにつれ、自分なりに円滑に心身ともに自らをコントロールしてきましたが、講座を受けることで自分自身の時間も持て、一層日々の生活に張りが出てきました。これからも続けていきたいと思えます。



## 充実してきた体験入学 旧職員 奥 隆治

「皆さん！平野高校は平成7年より、「夢のある、希望のある学校」として大きく変わります」。これは第一回体験入学の案内文の一節です。平野高校体験入学は、中学生対象の模擬授業です。参加する生徒のために、毎回10数講座が開設され、本校の先生方が色々と工夫をこらした授業を行ないます。回を重ねるごとに、参加者が増え、会場の視聴覚教室が埋め尽くされるほどの盛況ぶりとなっています。また体験入学に来た生徒が、そのまま本校生となる場合も多くなってきました。「体験入学のとき先生に会ったよ！」と言われるのは担当者として嬉しい事です。本校が「夢のある、希望の持てる学校」となっていくにつれ、体験入学も充実したものになってきました。

## 団対抗の体育大会 旧職員 至田 雅一

校内の渡り廊下や水飲み場でボリュームを目いっぱい上げた軽快な音楽が流れ、これにあわせて多くの生徒がリズムカルな動きで踊っている。みんな普段の授業の時とはまた一味違った真剣な表情だ。今は平成11年体育大会の半月前、団対抗形式では2回目の体育大会となる。1年前、生徒会役員の意見をもとに、団対抗で体育大会をやろうということになり、生徒会や実行委員会で準備していた。そのころは誰もが、本当にできるのだろうかという気持ちがあった。成否の鍵を握るのが各応援団の応援演舞だ。これですべてが決まる。教職員の熱意が通じたのか、生徒たちは自分たちの体育大会という気持ちで動き出した。休み時間の教室、放課後の下足室、夜の公園、懸命にみんな練習に取り組んだ。そして今年、17期生3年生の熱い気持ちは確実に、18期、19期に伝わっていた。来年は今残って練習している19期、20期生、そしてまだ眠っていて力を出していない面々にも大いに期待したい。



# 21期生

平野高校 2000.4~2003.3  
Anniversary 30 th



入学式



宿泊研修



修学旅行





体育大会



文化祭



## 21期生の思い出

旧職員 仲谷 早苗

転勤2年目で21期の1年担任となり、3年間共に過ごすことになりました。

転勤1年目は副担任ということもあり、集会の状況など前任校よりもきちんと出来ていると感心したものです。担任になって初めて、生徒一人ひとりがいろいろな問題を抱えながら通学している事を知りました。中学校と違い、守らねばならないルールの新しさに我慢できず、学校を去っていく生徒も出てしまいました。そんな3年間の中で、素晴らしい経験もたくさんありました。印象に残っていることのひとつが3年生の時の文化祭です。カレー屋さんをしたいという生徒、プラネタリウムを製作したいという生徒、人体模型を作りたいという生徒、クラスで取り組みたい事が3つも出て、それぞれが絶対やりたいこと。クラスの取り組みが一つという決まりがなかったのが、やりたいならそれぞれ頑張ってみようということになりました。いろいろなスパイスを工夫してカレーに取り組むグループ。紙粘土で人体模型をつくるグループ。特にプラネタリウムは、教室一杯に竹で大きなドームを作り、光源になる電球をあれこれ工夫、見事に美しい星の世界を作り出しました。生徒はよく「どうせ、平野」と言います。しかし、やりたい事を見つけたら素晴らしい力を発揮する事ができるのです。もっと自信を持って欲しいと思います。



# 22期生

平野高校 2001.4~2004.3  
Anniversary 30 th





「あの日々があったからこそ今の平野がある」

旧職員 迫田 茂

20周年の翌年（平成12年）に着任した私に教職員の熱い思いが伝わってきた。さまざまな課題を抱えつつ「チーム平野」として一つの取組を共有した粘り強い行動力、地域社会・保護者・生徒との絆の構築、このことが他に類似を見ない一千坪を越す学校ビオトープづくりをおし進めることができた大きな要因ではないでしょうか。

そういえばあの頃、教職員・生徒からこんな言葉がよく聞かれた。

「放課後 ビオトープ集合！！」

創立30周年を心よりお祝い申し上げます。

創立30周年おめでとうございます

旧職員 樋口 真須人

私が平野高校に勤務していた時期に環境コースがスタートしましたが、当時、環境コースをもつ普通科の学校は全国においてもほとんど例がありませんでした。どのような教育内容にすれば生徒を引きつけられるのか、日々試行錯誤を続けていたことが懐かしい思い出となっています。

21世紀では、ますます「環境」が重視されてくるでしょう。先見性を持った「環境・人間コース」とともに、進化し続ける平野高校に今後もエールを送りたいと思います。

# 23期生

平野高校  
Anniversary 30 th

2002.4~2005.3



入学式



宿泊研修



体育大会



修学旅行





## 旧職員 至田 雅一

17期生（城市学年）が2年のときから26期生（森学年）が2年のときまでの10年間、敬愛すべき先生方と共に働くことができたことに感謝しています。

生徒達に対して毅然と対応し切る先生方から多くのことを教わりました。

自分なりに必死に過ごした10年間でした。好きなこともいっぱいさせてもらいました。空手部、理科実験、体育大会、ビオトープ・・・。

平野高校の幸多き将来を願っています。  
ありがとうございました。



文化祭



23期生卒業記念 和太鼓一式



# 24期生

平野高校  
Anniversary 30 th

2003.4~2006.3



宿泊研修



留学生と



幼稚園実習



修学旅行



体育大会

